

東アジア研究科

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	小谷典子				

授業の概要 博士論文作成に向けて研究指導を行う

授業の一般目標 博士論文を作成する

授業の計画(全体) 博士論文の遂行に向けて研究指導を行う

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究課題の明確化
- 第 2 回 項目 先行研究の研究
- 第 3 回 項目 先行研究の研究
- 第 4 回 項目 先行研究の研究
- 第 5 回 項目 先行研究の研究
- 第 6 回 項目 先行研究の研究
- 第 7 回 項目 先行研究の研究
- 第 8 回 項目 中間レポート作成
- 第 9 回 項目 中間レポート修正
- 第 10 回 項目 フィールド研究の準備
- 第 11 回 項目 フィールド研究の準備
- 第 12 回 項目 フィールド研究
- 第 13 回 項目 フィールド研究
- 第 14 回 項目 フィールド研究
- 第 15 回 項目 前期研究の報告
- 第 16 回 項目 先行研究の研究
- 第 17 回 項目 先行研究の研究
- 第 18 回 項目 先行研究の研究
- 第 19 回 項目 フィールド研究の準備
- 第 20 回 項目 フィールド研究の準備
- 第 21 回 項目 フィールド研究
- 第 22 回 項目 フィールド研究
- 第 23 回 項目 フィールド研究
- 第 24 回 項目 フィールド研究
- 第 25 回 項目 フィールド研究
- 第 26 回 項目 中間論文作成
- 第 27 回 項目 中間論文修正
- 第 28 回 項目 中間論文修正
- 第 29 回 項目 中間論文修正
- 第 30 回 項目 中間論文完成

成績評価方法(総合) 平素の成績

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 博士論文作成のための研究課題「対人関係に係わる」方言を中心に考察する。

授業の一般目標 博士論文の作成。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：方言分布の解釈についての理解を深める。。 関心・意欲の観点：積極的な資料の探索。

授業の計画（全体） 学生のレポートをもとに指導・助言を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 学生の課題レポート
- 第 3 回 項目 学生の課題レポート
- 第 4 回 項目 学生の課題レポート
- 第 5 回 項目 学生の課題レポート
- 第 6 回 項目 学生の課題レポート
- 第 7 回 項目 学生の課題レポート
- 第 8 回 項目 学生の課題レポート
- 第 9 回 項目 学生の課題レポート
- 第 10 回 項目 学生の課題レポート
- 第 11 回 項目 学生の課題レポート
- 第 12 回 項目 学生の課題レポート
- 第 13 回 項目 学生の課題レポート
- 第 14 回 項目 学生の課題レポート
- 第 15 回 項目 学生の課題レポート

成績評価方法（総合） 出席、レポートの完成度

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	田中誠二				

授業の概要 受講者が希望する史料を精読する。受講者の研究課題を報告し議論する。研究課題についての研究史を整理する。 / 検索キーワード 歴史学

授業の一般目標 1. 史料を正確に読み、解釈できるようにする。 2. 研究史のサーチが十分に出来るようにする。 3. 時系列にそって、変化・本質・連関が説明できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究史の正確なサーチ。研究課題の基礎知識を得る。 思考・判断の観点：史料にそって論理的に説明できるようにする。 技能・表現の観点：考えたことを論文に表現する。

授業の計画（全体） 概要に述べたことを繰り返し訓練する。

成績評価方法（総合） 報告とレポートの内容によって評価する。

連絡先・オフィスアワー 月曜と金曜の昼休み

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	辻正二				

授業の概要 学位取得のための授業である。

授業の一般目標 年間を通して博士論文を成果物として提出することが出来るための指導を指導をおこなう。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 学位論文題目に関する指導をおこなう。

授業の一般目標 学位論文に関するテーマ設定、資料収集、論文構成と資料整理などを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文のテーマ設定と資料収集。 思考・判断の観点：論文のテーマ設定と資料整理。 関心・意欲の観点：資料収集。

授業の計画（全体） 学位論文の製作に関わる指導をおこなう。

成績評価方法（総合） 毎回の指導とそれに対する反応。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 博士論文作成をめざす学生の指導を行う。該当学生がある場合に実施する。内容は学生の状況や希望を考慮して計画する。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	瀧瀬厚				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	橋本義則				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	高木智見				

授業の概要 過去の偉大な研究者の業績を熟読することにより、先秦史研究の理想的な研究方法を追求する。 / 検索キーワード 二重証拠法 積古 疑古 信古

授業の一般目標 研究の着眼点、構想の方法、史料解釈、論理構成など、先人の優れた点を学びとり、さらにその限界をも明確に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本や中国の代表的研究者の方法論、およびその到達点を理解できる。 思考・判断の観点：様々な解釈の方法を知り、自らの方法の確立に向けての足がかりとする。

関心・意欲の観点：関連する古典研究やその他の学問分野の方法をも参照する。さらに木竹簡など出土史料の活用についても意識する。

授業の計画（全体） 毎回、代表的論考を取り上げて、熟読し、その研究方法を明確に分析する。それによって、自らの研究方法をより豊かで深いものとする事ができる。

成績評価方法（総合） 毎回、事前に論文を読了することが求められるが、その達成度とレポートによって判断する。

メッセージ すべての基本は着実な積み重ねである。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 15時から16時

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 博士論文執筆のための助言を行う

授業の一般目標 論理的な解釈、思考ができること。

授業の計画（全体） 学生主体のスケジュール、内容を組み立て実行する。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	平野芳信				

授業の概要 基本的は受講生と相談の上、内容は決定する。私自身の研究が日本近現代文学であるので、自
 ずとテーマは絞られてくるものとする。

授業の一般目標 博士論文作成のために必要な知識・方法の体得を目指す。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 項目 総括

連絡先・オフィスアワー 個人研究室：9 3 3 - 5 2 6 2 メールアドレス：y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp

オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	馬彪				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 本授業は博士論文指導。

授業の一般目標 着実に研究を進め、「博士論文」の名に値するレベルに達することを目標とする。

授業の計画(全体) 各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、進捗状況の報告を課す。

成績評価方法(総合) 進捗状況により判断する。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本古代文学作品の研究。 / 検索キーワード 日本古代文学

授業の一般目標 日本古代文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本古代文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：日本古代文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に日本古代文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点：日本古代文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画（全体） 日本古代文学作品を取りあげ、諸学説を検討したうえで発表担当者の考察を展開していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表
- 第 4 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 5 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (3)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の整理 (1)
- 第 8 回 項目 先行研究論文の整理 (2)
- 第 9 回 項目 発表資料の作成 (1)
- 第 10 回 項目 発表資料の作成 (2)
- 第 11 回 項目 発表資料の作成 (3)
- 第 12 回 項目 研究発表 (1)
- 第 13 回 項目 研究発表 (2)
- 第 14 回 項目 研究発表 (3)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 資料の完成度・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：授業時に指示する。 / 参考書：授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	塚田広人				

授業の概要 市場経済を採用している諸国における現状と問題点を考察する。 ・市民社会の基礎的構造の検討 ・現時点の市場経済の基本構造としての福祉国家の現状と問題点の検討 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性 efficiency, equity and human fellowship

授業の一般目標 市場経済を採用している諸国における現状と問題点を考察し、理解する。 ・市民社会の基礎的構造の検討 ・現時点の市場経済の基本構造としての福祉国家の現状と問題点の検討

教科書・参考書 教科書：ジョン・ロールズ『正義論』紀伊國屋書店 塚田広人『社会システムとしての市場経済』成文堂 Hiroto Tsukada, Economic Globalization and the Citizens' Welfare State, Ashgate

連絡先・オフィスアワー 研究室 経済学部 A 東 4 階 404 号室 電話:083-933-5558 E mail: ht@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 1 時半 - 3 時 (他の時間も在室時は相談可)

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	橋本寛				

授業の概要（受講学生と相談して決める。）

授業の一般目標（受講学生と相談した後で決める。）

授業の計画（全体）（受講学生と相談した後で決める。）

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	柳澤旭				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	長谷川光圀				

授業の一般目標 博士論文のレベルに達すること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 先行研究を理解すること 思考・判断の観点： 新しいところを強調
 できること 関心・意欲の観点： 正しく分析できること

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 特殊分野の研究
- 第 2 回 項目 特殊分野の研究
- 第 3 回 項目 特殊分野の研究
- 第 4 回 項目 特殊分野の研究
- 第 5 回 項目 研究分野の修正
- 第 6 回 項目 特殊分野の研究 2
- 第 7 回 項目 特殊分野の研究 2
- 第 8 回 項目 特殊分野の研究 2
- 第 9 回 項目 研究分野の修生
- 第 10 回 項目 特殊分野の研究 3
- 第 11 回 項目 特殊分野の研究 3
- 第 12 回 項目 特殊分野の研究 3
- 第 13 回 項目 特殊分野の研究 4
- 第 14 回 項目 特殊分野の研究 4
- 第 15 回 項目 特殊分野の研究 4

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	松井範惇				

授業の概要 東アジアの地域的な産業発展にかんする最新の研究成果をサーベイする。

授業の一般目標 東アジアの産業発展の分析視角を養う

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：グローバル価値連鎖、商品連鎖、生産ネットワークの最新の動向をサーベイする。 思考・判断の観点：東アジアの産業発展を分析する上で必要な視角を見につける。

授業の計画（全体） 関連する文献のサーベイを行うとともに、各自の研究報告にもとづいて討論する。

成績評価方法（総合） 参加者の準備、討論などで総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：適宜必要な文献を指示、配布する。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	中田範夫				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	植村高久				

授業の概要 学位論文作成計画を確定するために、既存研究の涉猟を中心にして研究内容の焦点を定め、さらに学位論文内容の拡充に努める。

授業の一般目標 研究テーマに関する研究状況を概観することができ、自己の研究のそれに対する独創性を確認できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマ領域の既存研究および研究状況と自己の研究の位置づけを説明できる。 思考・判断の観点：基本的なデータ及び事実について正しい認識を持ち、新しいデータや事実に関して自分で評価できる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関する関心を自分で体系的に記述することができる。 態度の観点：データや観察結果を客観的に分析・記述できる。 技能・表現の観点：事実やデータを分析し評価し記述できる技法を獲得している。

授業の計画（全体） 学位論文の焦点と構成を明らかにするための予備研究であり、対象領域の研究状況と既存研究の確認、独創性の余地とそれを明示するための論文構成法を各自で確認するための授業である。内容は研究状況全体の解明と既存研究の取りまとめ、各自の研究の方向性と方法の確立となる。

成績評価方法（総合） 2年生初めに作成される「学位論文作成計画書」に示される成果を中心に評価するが、演習の内容、発表内容にも留意する。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	立山紘毅				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 博士論文作成

授業の一般目標 博士論文作成

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	成富敬				

授業の概要 研究テーマに直接関連する事項についてディスカッションをおこなう。

授業の一般目標 博士論文を書くための材料を揃える。

授業の計画（全体） 研究の進捗状況による。

成績評価方法（総合） 研究に取り組む姿勢，研究成果等により総合的に判断する。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	横田伸子				

授業の概要 博士学位論文を作成するために、主に既存研究を涉猟し、その研究上の位置付けを行う。さらに先行研究との関連の中で、自己の研究の意味を見出す。

授業の一般目標 研究テーマに関するこれまでの研究状況を把握し、その中で自己の研究のオリジナリティを作り上げていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究の研究状況を把握し、それぞれの研究の位置付けができる。思考・判断の観点：資料分析や批判を客観的かつ正確にできる。関心・意欲の観点：事故の研究の独創性を積極的に作り出すことができる。技能・表現の観点：自己の考察や分析を客観的かつ論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 研究対象領域の先行研究の位置づけ及び自己の研究の独創性の確認を行う。さらに、博士学位論文の構成及び内容について検討を行う。

成績評価方法（総合） 演習での議論、報告・発表内容を総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー e-mail address : ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	石田成則				

授業の概要 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。

授業の一般目標 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの具体的活用を目指す。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	李海峰				

授業の概要 博士論文の指導

授業の一般目標 博士論文の完成

メッセージ レベルの高い博士論文を目指せ！

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	野村淳一				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	濱島清史				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画(全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法(総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 周知のように、90年代以降、急速に地方分権化が進み、それに合わせて市町村合併も進んでいる。2005年10月1日から誕生した新しい山口市は正にその典型例である。しかし、それらの動きが住民自治や団体自治を旨とする「地方自治の本旨」に果たしてあたるものであろうか。本講義では、上記の問題意識をもって、行政法に関する分野のうち、特に地方自治制度をめぐる問題を考えてみたい。

授業の一般目標 地方自治問題等に対して、行政法学の見地から説明・分析する知識や能力を身につけてもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、日本における地方自治制度に対する理解を深める。

授業の計画（全体） 具体的には、地方自治制度の事例や判例を取り上げて、講義を進めていきたいと考えている。

成績評価方法（総合） 出席、レポート等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	古賀大介				

授業の一般目標 博士学位にふさわしい、欧米経済史に関する高度な知識を身につける

授業の計画（全体） 受講者の学問的関心と照らし合わせながら、受講者と相談の上、決める。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	酒井義郎				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 博士論文を作成するための指導を行います。 / 検索キーワード 臨床心理学

授業の一般目標 院生が博士論文を作成していく場合の基本的な考え方や方法といったものを院生が会得できるようにします。

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5465. Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 各自の論文テーマに従って、資料収集、文献購読、論文執筆を行う。

授業の計画（全体） 各自の論文題目に関連した文献の収集、解読、分析、思考方法などを集積する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論文作成 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 同上 4
- 第 5 回 項目 同上 5
- 第 6 回 項目 同上 6
- 第 7 回 項目 同上 7
- 第 8 回 項目 同上 8
- 第 9 回 項目 同上 9
- 第 10 回 項目 同上 1 0
- 第 11 回 項目 同上 1 1
- 第 12 回 項目 同上 1 2
- 第 13 回 項目 同上 1 3
- 第 14 回 項目 同上 1 4
- 第 15 回 項目 同上 1 5

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	林徳治				

授業の概要 博士論文の作成にあたり、必要なデータ処理方法や成果発表での効果的なプレゼンテーション技術について習得する。

授業の一般目標 教育メディアの特性を理解し、各自の博士論文作成上必要なデータ処理技術やプレゼンテーションソフトを利用したシートを開発できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 教育メディアの特徴を理解し効果的な利用方法を探究できる。
 思考・判断の観点： 課題解決に向けて、クリティカル、ロジカルな思考を持つことができ、効果的なプロセスを決定できる。

連絡先・オフィスアワー 研究室(教育学部附属教育実戦総合センター 1 F) 、内線 5 4 6 1
 hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日 14:30~16:30

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	西村正登				

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 博士課程における研究テーマに関わる諸課題を解決するための研究を行う。

授業の一般目標 博士課程における研究テーマに関わる諸課題の解決手法を見つける。

授業の計画(全体) ・研究テーマに関わる諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査・ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についての討議等を行う ・研究成果が出次第、研究会や論文誌で発表する

成績評価方法(総合) 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	森下徹				

授業の概要 博士論文執筆のための基礎文献を輪読、テーマについての理解を深める。

授業の一般目標 基礎文献の読解、および基礎史料の所在・分析能力の育成をめざす。

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 各自の研究テーマに即した支援を行い、各自の研究テーマの深化を図る。

授業の一般目標 1・先行研究に学びつつ、各自の研究テーマの深化を図る。 2・独自の視点を持ち、研究が研究分野の発展に資することができる。 3・論理的に明快な論文にまとめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連した先行文献を精読し、理解している。 思考・判断の観点：先行文献を読んだ上で、問題点や課題を指摘することができる。 関心・意欲の観点：研究に対して強い関心を持ち、研究に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：先行文献を読んだ上で、独自の観点を提示しようと努める。 技能・表現の観点：分かりやすい日本語で、論理的に明快な文章を書くことができる。

授業の計画（全体）各自が研究テーマに即して発表し、全員で討議を加えて、研究内容の深化を図る。

成績評価方法（総合）研究内容・授業への参加状況により評価する。

教科書・参考書 参考書：必要に応じて、授業中に紹介する。

メッセージ 独自の視点をもって研究に取り組むことを期待する。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	特別研究	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	永尾隆志				

授業の概要 東アジアの地球科学上のトピックスについて課題を設定し関係論文をレビューする / 検索キーワード 東アジア、地球科学

授業の一般目標 博士論文作成のための重要なテーマについて理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博士論文のテーマに関係する論文のレビュー 思考・判断の観点：レビューした論文の問題点と今後の課題を明らかにする。

授業の計画（全体） 博士論文のテーマに関係する重要な論文をレビューする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 担当教員の問題提起
- 第 2 回 項目 論文 1 のレビュー
- 第 3 回 項目 論文 1 の問題点と課題
- 第 4 回 項目 論文 2 のレビュー
- 第 5 回 項目 論文 2 の問題点と課題
- 第 6 回 項目 論文 3 のレビュー
- 第 7 回 項目 論文 3 の問題点と課題
- 第 8 回 項目 論文 4 のレビュー
- 第 9 回 項目 論文 4 の問題点と課題
- 第 10 回 項目 論文 5 のレビュー
- 第 11 回 項目 論文 5 の問題点と課題
- 第 12 回 項目 論文 6 のレビュー
- 第 13 回 項目 論文 6 の問題点と課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 論文のレビューとプレゼンテーションの内容をもとに採点する。

連絡先・オフィスアワー 理学部 340 号室 e-mail: tnagao@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	比較文化基盤演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 D 1 の受講生が、各自のテーマにそって報告を行い、複数の比較文化講座の教官とともに討論を行い、内容を深めていく授業である。

授業の一般目標 東アジアの文化に関する基本的な研究態度をやしなう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 東アジアの文化に関する知識を取得する。 思考・判断の観点： 東アジアの文化に関する研究方法を考える。 関心・意欲の観点： 東アジアの文化研究のための資料をみずから探しだす。

開設科目	社会動態理解基盤演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	植村高久				

授業の概要 複数教員による1年生向けジョイントセミナーである。東アジア研究科のカリキュラムの中心に位置するものであり、厳しい授業であるが学生諸氏の成長の機会でもある。

授業の一般目標 論文作法を身につけ、自立的な研究者として業績を生み出せる素養を獲得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：専門外の人に対しても説得できるだけの機知と知略を身につける。 関心・意欲の観点：他人の批判に対し、拒否すべき点と受け入れるべき点を峻別し、学ぶべきことは確実に学ぶという意欲を持つ。 態度の観点：自己の見解を明確に主張できる。他人の批判を理解し、受け入れられる柔軟性を持つ。 技能・表現の観点：論文作法と論文構成法、その表現法を獲得する。

授業の計画（全体） 隔週開講の通年授業であり、1回は2時間程度である。1年生は2回に1回の割合で報告してもらおう。報告資料は事前配布し、各自パワーポイント等を用いて報告すること。

成績評価方法（総合） 自立的な研究者として必要な素養と技法の獲得が目標であり、その獲得程度で評価する。

開設科目	教育開発基盤演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 各自の論文テーマに沿ったレポート、概要、論文の試作を行い、発表、講評を行う。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文献購読 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 同上 4
- 第 5 回 項目 レポート発表 1
- 第 6 回 項目 同上 2
- 第 7 回 項目 同上 3
- 第 8 回 項目 同上 4
- 第 9 回 項目 論文報告 1
- 第 10 回 項目 同上 2
- 第 11 回 項目 同上 3
- 第 12 回 項目 同上 4
- 第 13 回 項目 講評 1
- 第 14 回 項目 同上 2
- 第 15 回 項目 同上 3

開設科目	東アジア文化論プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	高木智見				

授業の概要 受講学生全員の研究しているテーマをもとに、共通のプロジェクトを設定して、毎回担当する学生がそれに沿った報告を行う。そのご複数の教員と複数の学生が、相互に多角的な議論を行い、考察を深めていく。要するに、互いに専門を異にする研究者が、一つのテーマについて議論を重ね相互に啓発しあうことによって、問題の把握力、分析力、思考力、構想力などを獲得することを目指す。 / 検索キーワード 研究方法、異文化理解、

授業の一般目標 研究者としての基礎的能力の向上

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門の研究分野はもとより、他の研究分野に関しても、独自の理解を行い、自己の見解をもてる。 思考・判断の観点： 様々な研究方法や学問分野についても、自分自身の立場から理解できるようにする。 関心・意欲の観点： 他の研究分野のことについても、研究者としての観点から興味を持ち、理解しようとする。 態度の観点： 自分の意見を明確にして、議論に参加できる 技能・表現の観点： 自己の観点と他者の観点の違いを理解した上で、自己の意見を表現できる

授業の計画（全体） 最初の授業で、参加者の専門分野を考慮して研究プロジェクトの具体的な内容を決し、毎回、それにしたがって報告を行い、全員で議論しつつ、プロジェクトの達成を目指す。

成績評価方法（総合） 毎時間の報告、ならびに議論参加の状況、最後のレポートを総合的に判断する

メッセージ 地道な努力と積極的な姿勢が求められる

開設科目	日本文化論プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本文化を歴史・社会・文学・語学など多方面から考察する。その際、古代から現代にいたる資料をテキストとして具体的に理解させる。

授業の一般目標 自身の博士論文の課題についてレポートを行い、複数の担当教官によるアドバイスを受けて研究を深化・発展させていく。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：複数の担当教官との討論の中から、得た示唆を自身の研究に生かしていく。 関心・意欲の観点：定期的に研究発表を担当する。

授業の計画（全体） 学生自身の研究課題のレポート

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 3 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 4 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 5 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 6 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 7 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 8 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 9 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 10 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 11 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 12 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 13 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 14 回 項目 学生自身の研究課題のレポート
- 第 15 回 項目 学生自身の研究課題のレポート

成績評価方法（総合） 平常点、レポートの深化度

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	社会動態分析プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	塚田広人				

授業の概要 2 年次以降の博士論文作成指導のための集団指導体制による演習

開設科目	教育開発プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 アジアの教育に関する現代的課題を取り上げ、各自のテーマに沿って論文形式で発表、講評を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマの策定 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 資料収集 1
- 第 5 回 項目 同上 2
- 第 6 回 項目 同上 3
- 第 7 回 項目 分析と構成 1
- 第 8 回 項目 同上 2
- 第 9 回 項目 同上 3
- 第 10 回 項目 論文作成 1
- 第 11 回 項目 同上 2
- 第 12 回 項目 同上 3
- 第 13 回 項目 同上 4
- 第 14 回 項目 同上 5
- 第 15 回 項目 講評

開設科目	比較地域社会論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	小谷典子				

授業の概要 地域社会の分析枠組みを理解し、多様なコミュニティを例にしながら比較分析する

授業の一般目標 地域社会とは何か、地域社会はどのように変化しているかを理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：コミュニティとは何かを理解する 思考・判断の観点：地域社会の現状を考える 関心・意欲の観点：身近な地域社会に関心を持つ

授業の計画（全体） テキストの各章を読み進めながら、地域社会の現状を分析する枠組みを身につける

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業化と都市化
- 第 2 回 項目 流動型社会論
- 第 3 回 項目 社会移動の諸結果
- 第 4 回 項目 地域社会分析の 枠組み
- 第 5 回 項目 土着型社会の現 状分析
- 第 6 回 項目 土着型社会の流 動化
- 第 7 回 項目 流動型社会の比 較分析 I
- 第 8 回 項目 流動型社会の比 較分析 II
- 第 9 回 項目 流動型社会の比 較分析 III
- 第 10 回 項目 流動型社会の比 較分析 IV
- 第 11 回 項目 産業都市のコミ ュニティ I
- 第 12 回 項目 産業都市のコミ ュニティ II
- 第 13 回 項目 産業都市のコミ ュニティ III
- 第 14 回 項目 産業都市のコミ ュニティ IV
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 平素の成績とレポート

教科書・参考書 教科書：流動型社会の研究, 三浦典子著, 恒星社厚生閣, 1991 年 / 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ(都市社会学研究叢書 ; 10), 三浦典子著, ミネルヴァ書房, 2004 年

開設科目	比較社会意識論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	辻正二				

開設科目	日本語形成発達論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語列島における日本語の重層的な成立について考える。

授業の一般目標 日本語の形成過程を探究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の形成過程を探究する。 関心・意欲の観点：自分で広く先行論文を読むなど学習する。

授業の計画（全体） 「日本語列島における日本語の重層的な成立」についての私見を述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 先史（旧石器）時代
- 第 3 回 項目 縄文時代（前期まで）
- 第 4 回 項目 縄文時代（中期以降）
- 第 5 回 項目 弥生時代
- 第 6 回 項目 弥生時代
- 第 7 回 項目 弥生時代～古墳時代
- 第 8 回 項目 古墳時代
- 第 9 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成
- 第 10 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成
- 第 11 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成
- 第 12 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成
- 第 13 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成
- 第 14 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成
- 第 15 回 項目 日本語の音韻・アクセントの形成

成績評価方法（総合） 平常の学習態度。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本近世社会論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「日本近世社会論特別講義」: 日本近世社会の構造的特質を、萩藩をフィールドにその固有性ととも解明していく。今年度は、萩藩初期経済史、とくに藩財政について考究する。 / 検索キーワード 日本近世史、歴史学、萩藩

授業の一般目標 1. 歴史学の方法を理解する。 2. 日本近世社会の構造的特徴を理解する。 3. 藩財政の構造的特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 日本近世史の研究史の流れを知る。 2. 日本近世社会経済史の基礎知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点: 1. 比較史的にまた批判的に研究史を見ることが出来る。 技能・表現の観点: 1. 自分の見解を論理的に文章で表現出来る。

授業の計画(全体) 萩藩初期経済史、とくに藩財政について、その重要要素をとりあげながら、実証的に解明していく。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえて、レポートを提出させ、その内容によって成績評価をする。レポートは400字詰15枚以上。

教科書・参考書 教科書: 特になし。適宜プリントを配付する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本古代文学論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学作品の中から『源氏物語』を取り上げ、研究史のうえで問題とされてきた諸事項について検討を加える。

授業の一般目標 日本中古文学の研究を進めていくうえで必要な知識を習得し、更には日本中古文学研究において『源氏物語』研究の占める位置付けを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体）『源氏物語』研究で課題とされてきた諸事項について、研究状況を明らかにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 源氏物語の概説（ 1 ）
- 第 2 回 項目 源氏物語の概説（ 2 ）
- 第 3 回 項目 本文研究（ 1 ）
- 第 4 回 項目 本文研究（ 2 ）
- 第 5 回 項目 注釈（ 1 ）
- 第 6 回 項目 注釈（ 2 ）
- 第 7 回 項目 成立論（ 1 ）
- 第 8 回 項目 成立論（ 2 ）
- 第 9 回 項目 作品分析（ 1 ）
- 第 10 回 項目 作品分析（ 2 ）
- 第 11 回 項目 作品分析（ 3 ）
- 第 12 回 項目 作品分析（ 4 ）
- 第 13 回 項目 諸文化研究との関わり（ 1 ）
- 第 14 回 項目 諸文化研究との関わり（ 2 ）
- 第 15 回 項目 諸文化研究との関わり（ 3 ）

成績評価方法（総合）レポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集『源氏物語』（1）～（6）、阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男、小学館、2002 年 / 参考書：源氏物語事典、林田孝和ほか、大和書房、2002 年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本近代文学論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	平野芳信				

授業の概要 村上春樹の『神の子どもたちはみな踊る』について講述します。

授業の一般目標 『神の子どもたちはみな踊る』は作者村上春樹にとって初めての連作短編集であると同時に、日本という国の安全神話が曲がり角に差し掛かったことを象徴的に物語る出来事を背景にして成立しています。これらの問題について考えたいと思います。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 序論
- 第 3 回 項目 『U F O が釧路に降りる』論（ 1 ）
- 第 4 回 項目 『U F O が釧路に降りる』論（ 2 ）
- 第 5 回 項目 『アイロンのある風景』論（ 1 ）
- 第 6 回 項目 『アイロンのある風景』論（ 2 ）
- 第 7 回 項目 『神の子どもたちはみな踊る』論（ 1 ）
- 第 8 回 項目 『神の子どもたちはみな踊る』論（ 2 ）
- 第 9 回 項目 『タイランド』(1)
- 第 10 回 項目 『タイランド』(2)
- 第 11 回 項目 『かえるくん、東京を救う』論（ 1 ）
- 第 12 回 項目 『かえるくん、東京を救う』論（ 2 ）
- 第 13 回 項目 『蜂蜜パイ』論（ 1 ）
- 第 14 回 項目 『蜂蜜パイ』論（ 2 ）
- 第 15 回 項目 総括

教科書・参考書 教科書：文庫『神の子どもたちはみな踊る』，村上春樹，新潮社，2006 年 / 参考書：追って指示します。 ， ，

メッセージ 講義日誌という予習復習のための記録を作成していただきますので、ノートを一冊準備しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室電話番号：9 3 3 - 5 2 6 2 E メールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：追って指示します。

開設科目	日本民俗文化論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 1．日本における山村民俗文化史とその現代の変容の意味を考える

授業の一般目標 1．日本における山村民俗文化史を理解する。 2．民俗学における山村民俗文化研究の占める位置付けを理解する。 3．日本における山村の現状を踏まえて、現代の変容の意味を考察する。

授業の計画(全体) 1．山村民俗文化史を振り返る。 2．山村社会の現状を知る。 3．山村民俗文化の変遷を通じて現代の様相を把握する。 4．山村社会の未来を新しい動きを踏まえつつ構想する。(具体的には、受講生と相談のうえ決定する)

成績評価方法(総合) 授業への取組状況及び授業終了後に作成提出するレポートの評価による。

教科書・参考書 教科書：受講生と相談して、使用・不使用という点も含めて決める / 参考書：随時紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文棟 210 号室、電話：933-5279 (内線 5279) e-mail:yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	中国民衆文化論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	阿部泰記				

開設科目	中国先秦文化論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	高木智見				

授業の概要 先秦史研究の理想的な研究方法を、近着の『近出殷周金文集録』を読みつつ追求する。 / 検索キーワード 古典、出土資料、二重証拠法

授業の一般目標 金文史料を読み解きつつ、二〇世紀中国の代表的研究者の研究方法を理解していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：いくつかの工具書を利用して金文史料を読解できるようにする。

思考・判断の観点：様々な解釈の方法を知り、自らの方法の確立に向けての足がかりとする。 関心・

意欲の観点：金文や甲骨文、さらに木竹簡など出土史料に慣れ親しみ、積極的に利用できるようにする

授業の計画（全体） 毎回、一、二篇の青銅銘文を取り上げて、解釈し、同時に過去の研究者の研究方法来に言及する。古典と対照させ、また人類学的知見を援用して解釈する金文研究の醍醐味を味わう。

成績評価方法（総合） 毎回、とりあげる銘文については、一定の予習を求めるが、その達成度とレポートによって判断する。

メッセージ 銘文研究は飽くなき探求心のみによって可能になる

連絡先・オフィスアワー 火曜日 15時から 16時

開設科目	中国秦漢社会史論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	馬彪				

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 序論
- 第 3 回 項目 『U F O が 釧路に降りる』論（ 1 ）
- 第 4 回 項目 『U F O が 釧路に降りる』論（ 2 ）
- 第 5 回 項目 『アイロンのある風景』論（ 1 ）
- 第 6 回 項目 『アイロンのある風景』論（ 2 ）
- 第 7 回 項目 『神の子どもたちはみな踊る』論（ 1 ）
- 第 8 回 項目 『神の子どもたちはみな踊る』論（ 2 ）
- 第 9 回 項目 『タイランド』（ 1 ）
- 第 10 回 項目 『タイランド』（ 2 ）
- 第 11 回 項目 『かえるくん、東京を救う』論（ 1 ）
- 第 12 回 項目 『かえるくん、東京を救う』論（ 2 ）
- 第 13 回 項目 『蜂蜜パイ』論（ 1 ）
- 第 14 回 項目 『蜂蜜パイ』論（ 2 ）
- 第 15 回 項目 『蜂蜜パイ』論（ 3 ）

開設科目	中国近世演劇論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 中国近世の戯曲演劇史について論じる。

授業の一般目標 中国近世の戯曲演劇史に関して，基本的知識を得，個々の作品の読解を通じて，理解を深めること。

授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら，戯曲演劇史の特質について言及する予定。

開設科目	現代東アジア論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	額 厚				

開設科目	東アジア古代宮都論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	橋本義則				

授業の概要 東アジア（日本・中国・韓国・北朝鮮・ベトナムなどの諸国）に共通した政治制度として今日に至るまで都市のあり方を規制してきた「都城」について相互に比較検討を加えるとともに、個々の都城についても論述する。

授業の一般目標 東アジアに共通した都城という政治制度・政治装置を比較検討することを通じて、当該諸国の相違と類似を把握し、その背景にある歴史的要因を考究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジア（日本・中国・韓国・北朝鮮・ベトナムなどの諸国）に所在する都城の実証的な理解。 思考・判断の観点：東アジア（日本・中国・韓国・北朝鮮・ベトナムなどの諸国）に所在する都城を比較する際のキーポイントの発見。

授業の計画（全体） 東アジア（日本・中国・韓国・北朝鮮・ベトナムなどの諸国）に共通した政治制度として今日に至るまで都市のあり方を規制してきた「都城」について相互に比較検討を加えるとともに、個々の都城についても論述する。

成績評価方法（総合） 学期末のレポートによって評価する。

開設科目	東アジア造形伝承論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 日本や東アジア諸民族の住まいや生活用具などの物質文化を取りあげ、重要な論文をテキストとして講義を行います。

授業の一般目標 東アジア諸民族の物質文化の理解と研究法の習得。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 様々なものに対する基本的理解と社会経済システムとの関係性の理解 思考・判断の観点： 物質文化の研究視点からものを見ることができる。 技能・表現の観点： 論文で論理的に表現できる能力、発表など人にアピールする能力を持つ。

授業の計画（全体） 受講者の研究テーマに即して論文、授業法を考え進める。

成績評価方法（総合） 論文が書けるか、又は学会発表ができるかで判断する。

連絡先・オフィスアワー hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

開設科目	市民社会と市場経済システム特別 講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	塚田広人				

授業の概要 私たちが今住んでいる先進工業化諸国の社会を一般的に「福祉国家」と特徴付ける視点がある。そしてこの福祉国家の発展方向を巡って今、その維持・発展か、その抑制と競争力重視国家への転換かが問題となっている。この問題を考えるために、福祉国家を支える基盤としての市民社会、市場経済社会の基本構造と動態を、ロールズの『正義論』と拙著を使って検討する / 検索キーワード justice, efficiency, equity, welfare state

授業の一般目標 現代福祉国家の基礎と展開の理論的把握と若干の応用面の把握。

授業の計画(全体) 前半はロールズの著書を、後半は拙著を読む。

成績評価方法(総合) 出席と講義への参加度。

教科書・参考書 教科書: A Theory of Justice, John Rawls, Harvard Univ. Press, 1971 年 Economic Globalization and the Citizens' Welfare State, Hiroto Tsukada, Ashgate, 2002 年

連絡先・オフィスアワー 933-5558, ht@yamaguchi-u.ac.jp A 棟 424 号室 水曜日 1 時半 - 3 時 (在室時はいつでも可)

開設科目	制度動態特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	植村高久				

授業の概要 制度論とは抽象的に言えば人間行動の定型であり、無意識的で自動的・自立的であることを特徴とする。制度論とはこうした定型が、強い保守性を帯びながらも、無意識的・無目的的に変化(進化)するとする理論であり、変化の過程およびその動因を明らかにしようとするものである。この授業は制度論の古典的文献を通じてこうした動態の理論を理解しようとするものである。

授業の一般目標 制度論的思考法を意識的に考察に応用できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 制度論の基本的な用語とその含意、用法について正確に理解する。

思考・判断の観点： 様々な変化について、意識的に制度論的な説明ができる。 関心・意欲の観点： 変化とその要因について、個別的な行動様式の変容というレベルにまで至る関心を持つ。 態度の観点： 様々な巨視的变化に対して、巨視的な説明にとどまらず、微視的な変化の根元に迫る態度を持つ。 技能・表現の観点： 制度論的な用具を用いて分析し叙述する技法を身につけている。

授業の計画(全体) 内容的には制度論の古典の講読である。

成績評価方法(総合) 評価は原則的に制度論的思考法がどれだけ身に付き、分析に活用できるかという技能の観点から行う。

開設科目	計量経済分析特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	野村淳一				

授業の概要 計量経済分析の応用範囲は、今日広範囲に広がっており、先端的な分野における分析ツールを短期間に全てカバーすることは不可能である。したがって本講義では受講生の専攻分野でよく用いられる手法に集中し、その理論と応用方法について解説する。

授業の一般目標 計量経済分析の先端的な分野の理論を習得し、現実のデータへ応用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画（全体） 次の分野から受講生の希望により選択する。 1. 質的変数モデル（アンケート調査分析を含む） 2. パネル・データの分析 3. 単位根・共和分分析 4. ARCH モデル 5. カルマン・フィルター 6. 多変量解析（主成分分析、因子分析、クラスター分析）

成績評価方法（総合） 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。出席は欠格条件。

教科書・参考書 参考書： Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPES, 2002 年

メッセージ レポート作成に必要なワープロソフトの知識を持っていることを前提とする。計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示・指導する。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

開設科目	経済史系特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	古賀大介				

授業の概要 19 - 20 世紀におけるイギリスを中心としたグローバル経済の動態に関する講義を行う。

授業の一般目標 欧米経済史に関する高度な知識の取得を目指す。

授業の計画（全体） 受講者のテーマ・関心を踏まえたうえで計画を調整する。さしあたり、金融史的テーマを取り上げる予定。

開設科目	東アジア社会政策論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	濱島清史				

授業の概要 1997年のアジア通貨危機以降、とりわけ東アジアにおいても社会政策に関心を持たれ、国内外で様々な文献が出版され始めている。この講義では、そのような文献に関してサーベイし、東アジア社会政策がどのような特徴を持っているか議論を深めたい。さらに、筆者も参加している東京大学社会科学研究所でのプロジェクトの研究動向も紹介したい。なお社会政策とは、とりわけ日本においては労働政策（雇用失業対策や雇用機会均等政策など）と社会保障（社会保険、社会福祉など）の2本柱から成ることに注意されたい。／検索キーワード アジア、社会政策、福利厚生

授業の一般目標 東アジア諸国の社会政策に関して、特定の事例研究をし、国際比較も行ない、その特徴を把握すること。（暫定的に留まろうが、むしろ大まかな知識を得て、ビジョンを描けることを目的としてよいと考えている。）

授業の計画（全体） 前半では、どれかテキストを決めて輪読方式で発表し、後半は各自対象地域と対象政策を決めて研究し、最後にレポートを提出されたい。

成績評価方法（総合） レポート、発表、出席などの総合評価による。

教科書・参考書 教科書：アジアの社会保障, 広井良典・駒村康平 編, 東京大学出版会, 2003年; アジアの福祉戦略, 大沢真理 編, ミネルヴァ書房, 2004年; アジアのソーシャル・セーフティネット, 寺西重郎 編, 勁草書房, 2003年; 上記教科書は候補である。／参考書：Welfare Capitalism in Southeast Asia, Ramesh.M, Asher,M.l, Palgrave, 2000年; Welfare Capitalism in East Asia, Holliday,Ian, Wilding,Paul, Palgrave, 2003年

メッセージ 知識はどこまでも伸びやかで、優しくあたたかいものです。共に学ばん！

連絡先・オフィスアワー ・hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp ・083-933-5521

開設科目	韓国経済特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1970 年代以降の韓国の就業体制について分析し、それが韓国の政治・経済・社会の構造とともにどのように変化してきたかを考察する。とくに、分析する際、ジェンダーの視点を不可欠とする。

授業の一般目標 韓国の就業体制の構造や特徴について理解し把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる 思考・判断の観点：テキストである社会科学専門書を批判的に読み、さらにそれを自前の問題意識へと発展させることができる。 技能・表現の観点：自己の意見や問題意識を客観的かつ論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 韓国の就業体制に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を要約し報告する。報告を中心に、テキストの問題点や論点について議論する。

成績評価方法（総合） 報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。1 学期に 3 回以上欠席した場合には、単位を与えない。

メッセージ テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ジェンダー論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	横田伸子				

授業の概要 ジェンダー視角から見た医療制度と医療人材形成の日米韓比較を行う。

授業の一般目標 日本、米国、韓国の医療制度を正しく理解すると同時に、それに規定される医療人材形成の仕組みをジェンダーの視角から解明する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる 思考・判断の観点：テキストである社会科学専門書を批判的に読み、さらにそれを自前の問題意識へと発展させることができる。 技能・表現の観点：自己の意見や問題意識を客観的かつ論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 日米韓の医療制度や医療人材形成に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を要約し報告する。報告を中心に、テキストの問題点や論点について議論する。

成績評価方法（総合） 報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。1 学期に 3 回以上欠席した場合には、単位を与えない。

メッセージ テキストは適宜指示する

連絡先・オフィスアワー e-mail address:ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	東アジア社会経済論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	李海峰				

授業の概要 東アジア社会経済と国際経済を理論的に、実証的に考察、検討します、

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

開設科目	東アジア環境協力政策論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間の関係としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判 - 賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報学特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	成富敬				

授業の概要 研究領域に関連する情報学の分野について講義及びディスカッションをおこなう。

授業の一般目標 研究領域に関連する情報学の分野について知識を習得し，ディスカッションをおこなうことができる。

授業の計画（全体） 受講生と相談して決める。

成績評価方法（総合） 出席，内容の理解度，ディスカッション内容等により総合的に判断する。

開設科目	現代企業ファイナンス特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	城下賢吾				

開設科目	原価計算論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	中田範夫				

授業の概要 各種の原価計算を全般的に勉強する。

授業の一般目標 様々な原価計算の長所、短所を理解する。

授業の計画(全体) 原価計算システムは目的に適合した形で形成される。どのような原価計算システムがどのような目的を持って設計されているかを理解する。また、最近における新たな展開はどのような方向性を持っているのかを理解する。

成績評価方法(総合) 出席、報告、そして授業への参加度をもって総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：学生に合わせて選択する。

開設科目	経営工学特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	橋本寛				

授業の概要 ネットワーク問題の代数的解法について考察する。

授業の一般目標 ネットワーク問題の定式化と解法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 主要な基礎的概念を理解する。 関心・意欲の観点： 現実の具体的な応用例に関心を持つ。 技能・表現の観点： アルゴリズムを作成する。

授業の計画（全体） まず数学的な準備をし、ネットワーク問題の経路代数による解法について議論する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の進め方、必要な予備知識
- 第 2 回 項目 基礎的概念（ 1 ）
- 第 3 回 項目 基礎的概念（ 2 ）
- 第 4 回 項目 数学的準備（ 1 ）
- 第 5 回 項目 数学的準備（ 2 ）
- 第 6 回 項目 経路代数
- 第 7 回 項目 定義と性質（ 1 ）
- 第 8 回 項目 定義と性質（ 2 ）
- 第 9 回 項目 定義と性質（ 3 ）
- 第 10 回 項目 定義と性質（ 4 ）
- 第 11 回 項目 定義と性質（ 5 ）
- 第 12 回 項目 応用例（ 1 ）
- 第 13 回 項目 応用例（ 2 ）
- 第 14 回 項目 解法の検討
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席とレポートによる。

教科書・参考書 教科書： 教科書は使用しない。

メッセージ 多少数学の知識が必要です。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定。

開設科目	企業経営特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	長谷川光圀				

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業組織の原理
- 第 2 回 項目 企業組織の原理
- 第 3 回 項目 企業組織のネットワーク
- 第 4 回 項目 企業組織のネットワーク
- 第 5 回 項目 自動車会社の事例
- 第 6 回 項目 自動車会社の事例
- 第 7 回 項目 家電業界の事例
- 第 8 回 項目 家電業界の事例
- 第 9 回 項目 その他の事例
- 第 10 回 項目 その他の事例
- 第 11 回 項目 組織の病理
- 第 12 回 項目 組織の病理
- 第 13 回 項目 組織の病理
- 第 14 回 項目 組織の病理
- 第 15 回 項目 組織の病理

開設科目	リスクマネジメント特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	石田成則				

授業の概要 リスク・マネジメントの概念と手法を整理したうえで、製造物責任や公害補償責任を取り上げ、それに対応する保険システムとリスク・マネジメント手法の具体的活用について学習する。

授業の一般目標 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。

開設科目	マーケティング戦略特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	米谷雅之				

授業の概要 現代企業は、急速に進む技術革新やIT化、消費者ニーズの一層の高度化・多様化、国際化、そして諸種の規制緩和の推進等によって、大競争の大波のなかで奮闘している。このような市場環境のもとでは、多くの企業はつくったモノが期待通りに売れないという深刻な「販売の困難」に直面する。如何に大きな企業であっても、そして如何に優れた技術を開発できたとしても、その製品やサービスが販売され、収益の向上につながらなければ意味がないし、企業にとって命取りにもなりかねない。販売の過程が商品の「命懸けでの飛躍の過程」と呼ばれるのはそのためであり、企業の様々な活動は販売の過程で最後の審判を受けることになる。そのためにはマーケティングに軸足を置いた経営が求められ、企業の市場対応、競争対応、流通対応が問われることになる。この講義は、現代企業が如何にして「売れるしくみ」を構築し、持続的な競争優位を確立しているかについて、特に製品戦略の形成と展開に注力しながら、マーケティング戦略の諸問題について検討を加える。

授業の一般目標 この授業は、受講者が次のような点について理解し、説明できるようにすることを目指す。1. 「販売の困難」の内実、および企業が抱える市場問題について説明することができる。2. 企業と市場の相互作用を理解し、マーケティング戦略がもつ固有の戦略空間を識別することができる。3. 企業の市場ポジションに留意しながら、市場対応、競争対応、流通対応のしくみと方法について説明することができる。4. マーケティング戦略の体系を理解し、各下位戦略の内容について説明することができる。5. マーケティングおよびマーケティング戦略のダイナミクスを理解する。

授業の計画（全体） 1. マーケティング問題の基本認識 2. マーケティング戦略の視座 3. マーケティング・チャンネル戦略 4. 消費者行動とマーケティング戦略 5. 現代マーケティングの製品戦略 6. マーケティングにおける生産志向と消費志向 7. 製品ライフサイクルの戦略的意義 8. 製品差別化戦略と市場細分化戦略 9. 成熟市場のマーケティング戦略 10. 製品多様化マーケティング戦略の展開 11. 技術革新の進展とマーケティング戦略 12. マーケティング戦略のダイナミクス

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 マーケティング問題の基本認識
- 第 2 回 項目 マーケティング戦略の視座（1）
- 第 3 回 項目 マーケティング戦略の視座（2）
- 第 4 回 項目 マーケティング・チャンネル戦略
- 第 5 回 項目 消費者行動とマーケティング戦略
- 第 6 回 項目 現代マーケティングの製品戦略
- 第 7 回 項目 マーケティングにおける生産志向と消費志向
- 第 8 回 項目 製品ライフサイクルの戦略的意義
- 第 9 回 項目 市場異質性とポジショニング
- 第 10 回 項目 製品差別化と市場細分化戦略
- 第 11 回 項目 成熟市場のマーケティング戦略
- 第 12 回 項目 製品多様化マーケティング戦略の展開
- 第 13 回 項目 技術革新の進展とマーケティング戦略
- 第 14 回 項目 マーケティング戦略のダイナミクス
- 第 15 回 項目 マーケティング戦略論：まとめと発展

成績評価方法（総合） 期末試験あるいは期末レポートを中心に、授業へのコミットの程度等を総合的に判断して成績評価を行う。その比重は概ね次のようになる。 ・ 授業へのコミット度（出席状況や授業への参加度） 概ね 20 % ・ 課題レポートや報告内容 概ね 20 % ・ 期末試験あるいは期末レポート 概ね 60 %

教科書・参考書 教科書：下に掲げた参考書等から適切なものを選んで教科書にするか、そうでない場合はプリント等を配付して進める予定である。/ 参考書：現代製品戦略論, 米谷雅之, 千倉書房, 2001年; ゼミナール マーケティング入門, 石井淳蔵・嶋口充輝ほか, 日本経済新聞社, 2004年; マーケティング・マネジメント, フィリップ・コトラー, ピアソン・エデュケーション, 2002年; マーケティング論, 田村正紀, NHK出版, 1999年

開設科目	財務会計特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	松浦良行				

開設科目	市場経済と雇用システム特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	柳澤旭				

開設科目	メディア法とメディア論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	立山紘毅				

開設科目	政治論研究特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画(全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法(総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	行政法特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 この講義では、主に具体的問題（判例）の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、講義への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な制度の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な学説や判例に対する理解を深める。

授業の計画（全体） 具体的には、行政法学関係の事例・判例を取り上げて、事例・判例研究を行う。取り上げる事例・判例は、参加者と相談の上、決定する（特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する）。

成績評価方法（総合） 出席、レポート等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 絶えず、行政をめぐる情報に注意を向けて欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	社会システム分析特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	酒井義郎				

開設科目	東アジア地球科学分析特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	永尾隆志				

授業の概要 地球の歴史のなかでさまざまな時代に形成された東アジアの地形と地質について解説する / 検索キーワード 地球史、東アジア、テクトニクス、マグマティズム、日本列島

授業の一般目標 東アジアの地形と地質をつくりあげたテクトニクス、日本列島とアジア大陸の地球科学的な関連を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジアの地形・地質の発達プロセス、それを形づくった地球のダイナミクスを理解することができる。 思考・判断の観点：地形・地質現象から東アジアの発達過程を組み立てることができる。

授業の計画（全体） 東アジアの地形・地質について地球史の中でどのように形成されたのかを述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現在の東アジアの地球史的位置づけ（1）
- 第 2 回 項目 現在の東アジアの地球史的位置づけ（2）
- 第 3 回 項目 現在の東アジアの地球史的位置づけ（3）
- 第 4 回 項目 テクトニクスと東アジア（1）
- 第 5 回 項目 テクトニクスと東アジア（2）
- 第 6 回 項目 テクトニクスと東アジア（3）
- 第 7 回 項目 マグマティズムと東アジア（1）
- 第 8 回 項目 マグマティズムと東アジア（2）
- 第 9 回 項目 マグマティズムと東アジア（3）
- 第 10 回 項目 地球資源と東アジア（1）
- 第 11 回 項目 地球資源と東アジア（2）
- 第 12 回 項目 日本列島と東アジアの地球科学的関連（1）
- 第 13 回 項目 の地球科学的関連（2）
- 第 14 回 項目 の地球科学的関連（3）
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法（総合） 期末試験・レポートを下記の観点・割合で評価する。

連絡先・オフィスアワー 理学部 340 号室 e-mail: tnagao@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語教育論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 各自の研究テーマに即して、国語科教育に関連する支援を行う。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 国語科教育とのつながりにおいて、各自の研究テーマの深化を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連した先行文献を講読し、理解している。 思考・判断の観点：先行文献を読んだ上で、問題点や課題を指摘することができる。 関心・意欲の観点：研究に対して強い関心を持ち、研究に意欲的に取り組む事ができる。 態度の観点：先行文献を学んだ上で、独自の見解を構築しようと努める。 技能・表現の観点：自分の見解を口頭や文章で、適切に表現することができる。

授業の計画（全体）各自が研究に即して選んだテーマについて順番に発表し、それに全員が自由討議を加えることにより、各自の研究テーマの深化を図る。

成績評価方法（総合）平常授業における発表・討議の状況により判断して評価する。

メッセージ 主体的な問題意識を持って、授業に臨んでほしい。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本近世地域社会論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	森下徹				

授業の概要 山口啓二『鎖国と開国』の輪読

授業の一般目標 テキストの丁寧な輪読を通して、日本近世社会の特質をかんがえる

教科書・参考書 教科書：鎖国と開国, 山口啓二, 岩波書店

開設科目	美術教育論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 アジア地域の美術教育について講義する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美術教育概説 1
- 第 2 回 項目 同上 2
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 美術教育課程 1
- 第 5 回 項目 同上 2
- 第 6 回 項目 同上 3
- 第 7 回 項目 教材構造 1
- 第 8 回 項目 同上 2
- 第 9 回 項目 同上 3
- 第 10 回 項目 アジアの美術 1
- 第 11 回 項目 同上 2
- 第 12 回 項目 同上 3
- 第 13 回 項目 同上 4
- 第 14 回 項目 同上 5
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	教育哲学特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	西村正登				

開設科目	臨床心理学特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 夢やイメージ（絵を含む）が臨床心理学において果たす役割、夢やイメージの持つ治療的な機能などについて考究する。そのさい、東洋と西洋における違いについても考察する。 / 検索キーワード 夢。イメージ。絵。映像。心理療法。

授業の一般目標 夢分析やイメージ療法の基礎的な知識と技法を学んでもらう。また、夢やイメージを用いた心理療法の事例の検討を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：夢やイメージについて深く理解できる。 思考・判断の観点：夢やイメージがどのようなものであるかということに関して的確に思考し判断できる。 関心・意欲の観点：夢やイメージが果たす役割や機能について、意欲的に考究できる。 態度の観点：真面目に授業に出席して、積極的に発言できる。 技能・表現の観点：基礎的な夢分析やイメージ分析を行うことができる。

授業の計画（全体） 夢やイメージについての理解を深める。

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、レポート、出席、授業における発言内容（例えば、論理的なディスカッションが可能であるような内容かどうか）による。

教科書・参考書 参考書：臨床場面における夢の利用, 名島潤慈, 誠信書房, 2003 年；中国の夢判断, 劉文英（湯浅訳）, 東方書店, 1997 年；夢分析と心理療法, 鑪幹八郎, 創元社, 1998 年；表現療法, 山中康裕編著, ミネルヴァ書房, 2003 年

メッセージ 夢やイメージの広大な世界を通して、人間の心というものを深く探求してみたいと思います。絵や映像の世界にも触れてみたいと思います。

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5465. Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	教育メディア論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	林徳治				

備考 集中授業

開設科目	情報システム論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 情報システムの設計や構築に関わる数理・システム科学的方法論について論じる。特にネット理論に基づいたモデル化と性能評価の考え方および解析手法などに焦点を当て取り上げる。

授業の一般目標 情報システムに関する概念や知識や考え方を学び、システムの設計・構築を行うための方法論を取得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 情報システム の概念
- 第 3 回 項目 コンピュータシステム
- 第 4 回 項目 ネット理論 - 1
- 第 5 回 項目 ネット理論 - 2
- 第 6 回 項目 ネット理論に基づいたモデリング - 1
- 第 7 回 項目 ネット理論に基づいたモデリング - 2
- 第 8 回 項目 モデル化されたシステムの解析 - 1
- 第 9 回 項目 モデル化されたシステムの解析 - 2
- 第 10 回 項目 情報システムの評価 - 1
- 第 11 回 項目 情報システムの評価 - 2
- 第 12 回 項目 情報システムの設計・解析・評価例 - 1
- 第 13 回 項目 情報システムの設計・解析・評価例 - 2
- 第 14 回 項目 情報システムの設計・解析・評価例 - 3
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	中国東北経済構造論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国は国土広大であり、かつ地域間格差は甚だしく、しかも中央政府が格差拡大を容認する政策を採用したため、現在看過できない地域間格差問題に直面している。本講義においては中国の地域格差拡大仮説を、遼寧省、吉林省、黒竜江省からなる中国東北地方の現地調査及び数量分析を通して確認する。さらに、中国東北地方のおかれている国際環境の分析を行い、北東アジアあるいは環日本海経済圏という視野から、日本、韓国、ロシアとの協調・協力関係を考察し、日本が果たすべき役割を提起する。

授業の一般目標 中国における地域的経済格差の現状と成因を理解し、中国東北地域経済の再起について考える。

授業の計画（全体） 中国東北地域の経済発展の現状を調べ、経済不振の原因を追究する。各自担当地域を決め、研究状況を報告し、質疑応答を行う。終了時にはレポートを提出する。

成績評価方法（総合） 出席・報告 50 %、レポート 50 %

教科書・参考書 教科書：受講者と相談して決める。

開設科目	東アジア経済発展論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	玉村千治				

授業の概要 東アジア（特にアセアンと中国）における貿易・投資を通じた経済発展と産業連関を概括し、現在進捗する FTA の意味と実態を把握します。東アジアで進捗する事実上の経済統合は、各国間の経済格差を利用して進捗したものであるため、その格差の実態も把握することとします。前者に関しては、用意された文献に基づき講義が中心となります。ここでは国際経済の相互依存を知るために、貿易統計分析および簡単な産業連関分析を紹介・実習も行います。後者に関しては、経済格差の観点から後発 ASEAN 諸国（CLMV 諸国、すなわちカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムのうち特に前 3 者）に着目し、その経済社会の現状を把握します。用意された現状認識に関する文献の輪読により相互の理解を深めるようにし、適宜必要な解説を加えます。以上により、東アジアの経済発展の様相と同時に存在する経済格差の現状を認識することが本授業の狙いです

授業の一般目標 東アジア（特にアセアンと中国）における貿易・投資を通じた経済発展の状況を理解すること。それを踏まえ、現在進捗する FTA の意味と実態を把握。国際経済の相互依存を知るために、貿易統計分析および簡単な産業連関分析の習得。東アジアにおける経済格差の観点から後発 ASEAN 諸国（CLMV 諸国、すなわちカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムのうち特に前 3 者）に着目し、その経済社会の現状を把握。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 東アジアの経済相互依存の実態を把握すること。経済体系を理解するために産業連関分析の基礎知識を習得すること。後発アセアンの経済社会の現状を把握すること。

思考・判断の観点： 東アジアの経済発展のあり方を特に経済格差の観点から考察。その中で、FTA がどのような意味を持つのかも考えてみる。**関心・意欲の観点：** 数量分析に関心を促す。また、後発アセアンにも視野を広げてみる。**態度の観点：** 一般に小数クラスになるので、自由な意見交換をすることによって授業を進める。

授業の計画（全体） 講義の内容：（1）東アジアの経済発展比較（2）東アジアの経済相互依存関係の分析（3）分析手法の習得（1）貿易統計を用いた分析（2）（国際）産業連関分析の方法（含：演習）（4）東アジアにおける経済統合（FTA）（5）後発 ASEAN 諸国の経済社会の現状

成績評価方法（総合） 演習の理解度と割り当てられた文献の発表内容（試験は実施しない。）

教科書・参考書 教科書：教員が教材一式を用意します。

メッセージ これまでの経験から、大変和やかな雰囲気です。授業が進められます。不要な緊張はありませんので、この分野に関心ある学生は是非参加してください。また、数量分析を敬遠しがちですが、丁寧に解説しますので心配は不要です。

連絡先・オフィスアワー 照会などは chiharu.tamamura@ide.go.jp へどうぞ。

備考 集中授業

開設科目	東アジア比較文化特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官					

備考 集中授業

開設科目	東アジア経済・経営・法律特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	東アジア研究科入力支援者				

授業の概要 このクラスは、東アジアの産業分析方法の枠組みを理解することを目的とします。産業分析（ある国の産業であれ、ある地域の産業であれ）の方法について知識が乏しいために博士論文に取りかかるのが遅れることを防ぐためです。漠然と「 産業を取り上げたい」「××産業を分析対象としたい」と考えていても分析の手法がしっかりしなければ博士論文にはなりません。実際にある産業を包括的に分析するとなると、やらなければならないことは山のようにあります。それを限られた博士課程の期間中（30ヶ月）にやるとすれば、やれないこと、やらないことをはっきりさせる必要があります。そのために分析枠組を一日もはやく確立する必要があります。 このクラスでは、M・E・Porterの『国の競争優位』（日本語版1992年）をまず解説します。ポーターの産業分析の方法は「ダイヤモンド」分析としてよく知られたものですが、アジア新興工業国（中国を含め）の産業分析の手法としても有効な方法と考えられます。次に学生が実際にある産業分析をしたいと考えていると仮定して、個々のケースについて何ができるかできないかシミュレーションを行います。

授業の一般目標 自分自身の産業分析の方法論を確立し、博士論文に一日も早く取りかけられるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：産業分析の方法論を理解する 思考・判断の観点：自分自身の分析手法に体系的で厳密・論理的な実証方法を取り込む

授業の計画（全体）ポーターの「ダイヤモンド」分析を自己の産業分析の応用するとすれば、どうした調査研究が必要で、それができるのかどうか、できないとすればどのような方法によって代替するのかを明らかにする。

成績評価方法（総合）ポーターを理解するのが目的ではなく、ポーターの方法を自己の産業分析に応用することによって自己の研究手法を具体化することが目的である。それができれば高い評価を与えるべきであろう。

教科書・参考書 教科書：国の競争優位 上下, M・ポーター, ダイヤモンド社, 1992年

備考 集中授業

開設科目	東アジア教育開発特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官					

備考 集中授業

開設科目	コミュニケーション中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	何暁毅				

授業の概要 東アジアで言えば日本や、韓国、モンゴル、そして何より中国です。その中国はいま何が起きているのか、これからどう変わろうとしているのか、どうしても気になります。しかし、中国のことを知ろうとすると、言葉の問題を解決しなければなりません。この授業はその言葉問題を解決するきっかけを作る。

授業の一般目標 中国語コミュニケーション能力を高めることを第一の目標に、言葉の背景として、中国の文化や、社会も紹介し、理解を深める。

授業の計画(全体) 受講者のコミュニケーション能力を顧慮し、授業内容と計画を決める。

成績評価方法(総合) 出席などで総合評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書備考：受講者の能力を応じて教科書を決める。

メッセージ 中国の事ならなんでも(?)相談してください。難しい学問の話はさておいて、特に中国のお茶や、中華料理など中国語及び中国文化に興味ある人、集まって下さい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟 309 電話(内線)5065

開設科目	コミュニケーション・ハングル	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	和田学				

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基本母音 内容 基本となる母音を学ぶ。
- 第 2 回 項目 平音 内容 子音のうち、平音と呼ばれる子音を学ぶ。
- 第 3 回 項目 パッチム 1 内容 音節末の子音について学ぶ。
- 第 4 回 項目 パッチム 2 内容 音節末の子音について学ぶ。
- 第 5 回 項目 激音 内容 子音のうち、激音と呼ばれる子音を学ぶ。
- 第 6 回 項目 濃音 内容 子音のうち、濃音と呼ばれる子音を学ぶ。
- 第 7 回 項目 複合母音 内容 基本母音字を組み合わせて作る母音を学ぶ。
- 第 8 回 項目 発音の法則 1 内容 子音字が連続した場合に起こる音の変化を学ぶ。
- 第 9 回 項目 発音の法則 2 内容 子音字が連続した場合に起こる音の変化を学ぶ。
- 第 10 回 項目 A は B です 内容 「A は B です」の表現を学ぶ。
- 第 11 回 項目 A は B ではありません 内容 「A は B ではありません」の表現を学ぶ。
- 第 12 回 項目 疑問詞、hapnita 体と heyo 体 内容 疑問詞と、丁寧形の二つの文体について学ぶ。
- 第 13 回 項目 存在を表す表現 内容 存在を表す表現を学ぶ。
- 第 14 回 項目 固有語の数詞 内容 数詞のうち、韓国語に固有の数詞を学ぶ。
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：「聴いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅, 田星姫共著, 白水社, 2002 年; 「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年

開設科目	コミュニケーション英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	池園宏				

授業の概要 英語によるコミュニケーション能力を養成する。授業は全て英語で行う。基本的にはテキストのタスクを中心に授業を進めるが、受講者のレベルやニーズに応じて臨機応変に内容を変更・調整することもある。 / 検索キーワード 英語、コミュニケーション

授業の一般目標 (1) 英語の四技能をバランス良く習得する。(2) 母国語を介さず、英語で理解し、考え、発言する姿勢を体得する。(3) 基本的な会話表現や文法事項を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 提示された課題を理解し、自己の考えを英語で説明できる。(2) 英語の文法事項が理解できる。 思考・判断の観点：(1) 的確な状況判断に基づいて、諸場面に即した英語表現を選択できる。 関心・意欲の観点：(1) 英語で積極的に自己表現することに関心を持つ。 態度の観点：(1) 常に問題意識を持ってディスカッションに参加できる。

授業の計画 (全体) 前期はテキストの Unit1 から Unit6、後期は Unit7 から Unit12 までの内容を学習する。各 Unit を 2-3 回程度で終了する予定。

成績評価方法 (総合) (1) 試験は期末に一回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： Passages 1, Jack C. Richards & Chuck Sandy, Cambridge UP, 1998 年

メッセージ 単位取得を前提条件として受講を許可する。受講者は無断で欠席や遅刻をしないこと。

連絡先・オフィスアワー メール： ikezono@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 6 階

開設科目	コミュニケーション日本語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	林伸一				

授業の概要 大学院での研究に必要な日本語の知識について確認する。特に、研究発表、研究論文に必要な語句、表現などメタ言語に関する理解を深める。/ 検索キーワード 発表力、表現力、文章力、読解力

授業の一般目標 実際の研究論文を素材にして、日本語としてのわかりやすさ、一貫性、説得力などについて検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門的な内容についての日本語の知識・理解を深める 思考・判断の観点： 一貫性のある思考と適切な日本語表現について考える 関心・意欲の観点： 専門的なテーマに関する関心と研究に関する意欲を育てる 態度の観点： まじめに自分のテーマに向き合い、謙虚にアドバイスを受け入れる柔軟な態度を養う 技能・表現の観点： 日本語で説得力のある発表ができる技能と能力を身に付ける

授業の計画（全体） 専門的な研究を進めていくために必要な日本語の力を身につける

成績評価方法（総合） 授業での発表、表現力、資料の準備、参加態度で評価する

教科書・参考書 教科書： プリント配布

メッセージ 日本語でのコミュニケーションを大事にしよう

連絡先・オフィスアワー 木曜、10時30分ー12時、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp